資　料　２

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会における意見の概要及び反映状況等

１　長期ビジョンへの記載事項

項　目	意見の概要	意見の反映状況等
第２章　岩手の高等学校教育の基本的な考え方		
○　基本的な考え方	・今回の中間まとめと現行計画策定の前に示された基本的方向の違いは何か。 ・現行計画の分析について説明してもらいたい。	・「はじめに」の部分に、基本的方向との相違点を記載する。 ・新たな県立高等学校再編計画の取組（中間まとめ）を記載する。なお、第１回県立高等学校教育の在り方検討会議資料を調整する。
第３章　県立高校の学びの在り方		
⑴　高校の特色化・魅力化	・魅力化の取組についての総括を記載すべきである。	・魅力化の取組に係る現段階での総括を記載する。
第５章　高等学校教育の充実に向けた方策		
	・特色あるコースの設置について柔軟な姿勢で支援してもらいたい。 ・いわて留学の在り方について記載すべきである。	・「５高等学校教育の充実に向けた方策」に「普通科改革によらない新たな学科等の設置」について記載する。 ・「５高等学校教育の充実に向けた方策」に「いわて留学（県外募集）」について記載する。

２　各種参考等事項

意見の反映状況等における記号区分

Ａ：趣旨同一

Ｂ：在り方検討会議等の検討における参考とする

Ｃ：個別具体の取組において実現を目指す（即応可能な事項）

Ｄ：個別具体の取組において参考とする（実現に時間を要する等の事項）

Ｅ：次期再編計画策定の参考とする

Ｆ：その他（具体の記載）

（具体の取組において既に対応している、または長期ビジョンに反映している等の意見等については割愛）

項　目	意見の概要	意見の反映状況等
第２章　岩手の高等学校教育の基本的な考え方		
○　基本的な考え方	・地元にとって県立高校は不可欠な存在であり、地方創生や地域活性化の核になっている。 ・地域に貢献したい、地元に残りたい、戻って就職したいという人材育成、町づくりを進めていただきたい。	A
○　基本的な考え方	・県教育委員会は教育をとおして、地方創生にどのように取り組むのか ・人材育成の重要な視点 リーダーシップ、社会課題解決型人材、AI 人口知能の時代に対応できる人材、世界で活躍できる人材、社会貢献型ビジネスを創造する人材、起業家、工業・農業等専門分野の担い手 ・少子化が進む岩手が、全国に先駆けて岩手ならではの高校教育の在り方を検討する必要がある。 ・資質・能力の育成について重要な視点 豊かな心、自己肯定感、地元への愛着、個々の優れた才能発掘、一人ひとりの個性	A
	・市町村の人口減少の速度は、高校存続により緩やかになり、高校魅力化に取り組むことでさらに緩やかになるというデータがある。	B
	・地域の魅力等を探究するカリキュラム等により、将来地域に戻り地域の活性化に貢献する人材の育成が必要である。	C
	・教育の質の保証および機会の保障を重視した計画を立てるべきである。	E
	・地域を愛する心を育てるのは高校までの教育及び関わる周辺の大人の存在が重要である。	F（上位計画「岩手県教育振興計画（2024～2028）に記載」）

項　目	意見の概要	意見の反映状況等
第３章　県立高校の学びの在り方		
⑴　高校の特色化・魅力化	・再編を念頭に置くのではなく、高校の活性化を第一にしてもらいたい。 ・魅力ある高校をどう創造していくか、地域社会とどう歩んでいくのか、地域に対するミッションとは何かを明確にすることが基本的な考え方に資するのではないか。 ・魅力化とは、地域と一緒に学びを深めていくことにより、高校を含めた地域の魅力を高めることである。 ・高校は、中学校から進学して環境が変化しても、安心して教育をうけられる場であることが大切である。	A
	・私立高校は特化した教育内容により生徒の志願が増えている。県立高校も学習や部活動等、特色・魅力を打ち出してもらいたい。 ・中学生から各高校の違いがよくわからないという声が聞こえてくる。各校の魅力を発信してもらいたい。 ・地域の特色を活かしたカリキュラムを作成し、地域と連携した学校づくりが必要である。 ・各校が魅力ある取組を進めて中学生から選ばれる学校となることを望む。 ・学ぶほどに県外に流出する構図を解消しなければならない。 ・新しい魅力ではなく、今ある高校の魅力を最大限に引き出すことが大事である。	C
	・中学校との連携による高校の魅力づくりの可能性も探ってもらいたい。 ・コーディネーター等の専門的な人材の配置等について、県として積極的な取組をお願いしたい。	D
⑵　普通高校（普通科、理数科及び体育科を置く県立高校）	・中学校段階では進路選択が進まず、普通科を選択する傾向がある。	A
	・普通高校の特色化・魅力化を進めるべきである。	B
	・普通高校においても民間事業者と連携する機会を創り、農工等に関連する学びを実施してもらいたい。	D
	・釜石市に難関大学等への進学率の高い高校を設置してもらいたい。	E
⑶　専門高校（農業、工業、商業、水産、家庭など、職業教育を主とする学科を置く県立高校、総合的な専門高校）	・専門高校には、遠隔地からでも目的を持って高校を選択する魅力ある教育を進めていただきたい。 ・近年、県内各地の工業高校の志願者数が減少し、専門分野に関わる担い手不足が懸念される。	A
	・課題や課題解決の方向性に関する記述が抽象的ではないか。具体的に記述すべきではないか。 ・産業界が望む人材育成について、県教委は理解する必要があるのではないか。	B
	・新規就農者に期待が高まっているが、農業高校卒業者の就農率が低い。農業の大切さ、楽しさをもっと伝えてもらいたい。（Ｕターンで就農する素地にはなっている）	C
	・農業系の高校・学科を全て全寮制にし、各地域を交流して学ぶことにより、幅広く学ぶことができるのではないか。	D
	・専門性を追求するのであれば、農業なら農業高校、工業なら工業高校として維持してもらいたい。	E

⑷　総合学科高校	・総合学科高校について系列の見直し等を含む在り方について検証が必要ではないか。	A
	・中学校段階で進路決定に至ることが困難な生徒にとっては総合学科における学びが適しているのではないか。	B
⑸　定時制・通信制高校	・定時制と通信制を組み合わせたフレックスハイスクールも必要になってくるのではないか。 ・生徒の学び直しの場であるという観点で定時制高校の在り方を考えていただきたい。	A

項　目	意見の概要	意見の反映状況等
第４章　学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）		
⑴　学校規模	・生徒数だけで高校再編を進めるのではなく、地域の実情を考慮し、丁寧に進めていただきたい。 ・これだけ少子化が進むと、全ての県立高校が小規模校になるという危機感を持っている。 ・学校規模の維持を目的にした再編は、将来的に限界が来るのではないか。	A
	・小規模校の現状分析ができていないのではないか。 ・特例校について解釈が定まらない。 ・特例校の設置条件を、人口の少ない町村を対象とする等の柔軟な対応をお願いしたい。	B
	・特区扱いにして、高校を減らさないことを検討いただきたい。	E
⑵　小規模校の在り方	・小規模校は、一定数いる少人数の集団で学びたいという生徒にとって重要な役割を果たしている。 ・小規模校の利点を生かす岩手独自の教育の在り方を検討すべきではないか。 ・小規模校であっても教育の質の保証と機会の保障を望む。 ・小規模校なりの良さを生かした教育を行ってもらいたい。	A
	・教育の機会の保障の観点から、１学級校の在り方について柔軟な対応が望まれる。	B
	・農業、工業等の科目を地方の小規模高校普通科でも学べる環境の整備を期待する。	C
	・小規模校に対して、地域が相当支援しているが、県が主体的に学校の充実を図ることが重要ではないか。 ・小規模校同士の協力、連携を探る必要がある。県が主催して検討会を実施してもらいたい。 ・小規模校や統合校は維持管理費も考慮した計画を望む。	D
⑶　地区割と学校配置	・９ブロックを６地区に広域化することは５つの柱の実現に際して障害になるのではないか。 ・沿岸部と内陸部の教育格差が顕在化しているのではないか。 ・今回の地区割で遠野市は釜石・遠野ブロックから中部地区となり、通学区域は釜石・気仙学区であることについて説明してもらいたい。 ・高校を選択する際に、進路目標や部活動等の他、通学にかかる費用や時間も重要である。 ・教育の質が担保できないのであれば高校を減らすのもやむを得ない。 ・沿岸地区において、過去の統廃合により公共交通機関の利用者が激減するという事実があり、考慮いただきたい。 ・交通網の発達を考慮するとあるが、バス路線が廃止される中で、子ども達の通学手段が確保できるか疑問である。 ・高校の配置を検討する際は、下宿等をしなくても生徒が通えるようにするべきである。 ・往復３時間の通学時間を考えると、地元に高校があることが望ましい。	B

⑷　通学区域（学区）	・県外からの進学や学区を越えた進学等を妨げない施策を講じてもらいたい。 ・国の二地域居住の考え方を踏まえて、通学区域等の在り方をまとめてもらいたい。	B
⑸　通学に対する支援	・学びの選択肢を確保するためにも、県が主体となった通学費等の支援が必要ではないか。 ・通学困難が理由で選択の幅が狭くなっている状況は残念に思う。 ・全国に先駆けて寮の整備、通学支援に取り組んでいただきたい。	B
	・通学支援について、コンパクトシティの推進などの町づくりの観点を取り入れるなど、費用負担を伴わない連携の形を検討できないか。 ・通学時の安全面にも配慮いただきたい。	D

項　目	意見の概要	意見の反映状況等
第５章　高等学校教育の充実に向けた方策		
⑴　遠隔教育・学校間連携	・遠隔教育で専門高校と連携すれば小規模普通科高校でも専門的な国家資格の受験が可能になるのではないか。 ・高校の空き教室を活用し、大学等との連携や支援学校の併設もできるのではないか。 ・広域での通学をなくすために最先端の遠隔教育の導入が必要となってくる。 ・教員が配置できなくても学校間での遠隔授業を受けられる体制を構築してもらいたい。	B
	・教育の質が高ければ、生徒は地元に残るので、遠隔授業等での質の高い教育を実現してもらいたい。	D
	・通学距離が長くなる場合は、交通支援や遠隔授業と対面授業を併用し対応する必要がある。 ・体育施設の供用等、小中高連携も視野に入れたビジョンとしてもらいたい。 ・オンライン等を活用し、小規模であっても地元に高校を存続させることが、保護者の経済面を考えても必要ではないか。 ・近隣の高校と連携する岩手独自のモデルを考えてもらいたい。	E
	・遠隔授業で信頼関係を築くことができるのか疑問である。	F（小規模校における遠隔授業の取組から生徒・教員間の信頼関係の醸成について一定程度効果が認められているもの。）
⑵　特別な支援を要する生徒への対応	・不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒に対して、小規模校が受入れのセーフティネットとなっている。	A
	・不登校が増加している中、ICT を活用した遠隔授業等をすべての高校が取り入れ、生徒を支援する体制づくりが必要ではないか。	B
	・教育上特別な支援を必要とする生徒、不登校の生徒等に対応した再編を進めるべきだ。 ・どのような状況の生徒であっても、県立高校への進学が可能となるような環境を整えてもらいたい。	E
⑶　普通科改革（「普通教育を主とする学科」の弾力化）	・普通科について、プラスアルファの学びの機会を創出できるような環境を望む。 ・地域課題解決や探究学習等、魅力化の取組は普通科改革につながるはずである。	D

(4)　全日制高校への単位制導入	・単位制で遠隔授業を実施する際は、授業の空き時間に企業訪問をするなど自己研鑽し、広い視野を持った生徒を育ててもらいたい。	B
(5)　県政課題等に対応した人材育成の取組	・医師が盛岡等に偏在しており、沿岸や県北地域に医学コースを設置してもらいたい。	E
(6)　中高一貫教育	・地域の不公平感をなくし、他県からの家族定住を促進するためにも併設型中高一貫教育校を他地区に設置すると記載してもらいたい。	E

項　目	意見の概要	意見の反映状況等
その他		
	・懇談会等の出席者に女性が少ない。女性の県外流出等を防ぐためにも女性の意見を聴くべきである。	C
	・いわて留学について他県のように、県が主導すべきではないか。 ・私立高校との定員調整が必要と考える。 ・奨学金制度等、経済的な支援が必要な家庭への仕組みづくりを考えていただきたい。 ・海外の生徒も含めて志願者の確保を考えても良いのではないか。	D
	・県教委の管理運営規則は、高校魅力化と相反するものになっているのではないか。管理運営規則の見直しを望む。 ・１学級当たりの生徒数を地域によって柔軟にすることで、各校の魅力化が進めやすくなるのではないか。 ・統廃合した後も教職員の配置を厚くしていただきたい。 ・学級数により教員の配置数が決まる制度について検討してもらいたい。	F（管理運営規則、教員の配置数に関わることは、現状のとおりとする。）